

北海道大学大学院教育学院への進学についてお考えのみなさまへ

教育学院長 横井敏郎

第二次世界大戦が終わってまだ間もない1949年に北海道大学教育学部が設置され、その4年後の1953年に大学院教育学研究科が設置されました。25年ほど前には大学院に社会人枠を設け、教員を始めとして多様な専門職に就いている人や社会経験をもった人を社会人院生として受け入れるようになりました。大学院設置から約70年が経過しましたが、この間、多くの院生が巣立ち、さまざまな分野で活躍しています。

北海道大学教育学院は人間の発達と学習、教育を対象として研究するため、乳幼児から高齢期まで、心理と身体、実践と制度、思想・歴史までを幅広くカバーし、発達・学習と教育を総合的に解明する研究体制を構築しています。また、基礎科学からのアプローチを重視し、心身の機能や発達の原理、社会構造などの基礎的な解明を行いながら、同時に社会的な課題に取り組み、実践や応用に寄与する研究を行ってきています。

大学院ではこれら多様な専門分野において1つの課題を深く探究していくことが求められます。しかし、それは一人で行うものではありません。それぞれの分野で優れた研究を行っている教員がいます。また同じように教育学を志して入学してきた院生たちがいます。教員と同輩や先輩の院生たちとともに議論し、課題を追究していくことを当学院では重視しています。北大教育学院は非常に小さな大学院ですが、その小ささを活かして密度の高い学びと研究の空間を作り出し、日々活発に活動しています。

現代は非常に変化の早い時代です。こうした時代において人はいかに学び、成長し、社会に加わり、生きていくことができるのか。こうした問いはいま従来に増して重要なものとなってきています。みなさんの教育や人間の発達と学習への関心も、きっとこうした大きな社会の流れの中で生まれているに違いありません。ぜひ教育学院の学問研究に加わってくれることを期待しています。